

共催：建築緑化技術協会／一般社団法人 緑のまちづくり支援機構

第14回

建築緑化 WEB講演会

薄層屋上緑化技術協会は

2024年4月から **建築緑化技術協会** に変わりました

テーマ

「水と緑と人と未来」

後援

国土交通省

東京都環境局

大阪府環境農林水産部

共催：建築緑化技術協会 一般社団法人 緑のまちづくり支援機構

国土交通省・東京都環境局・大阪府環境農林水産部 後援

第14回 建築緑化WEB講演会報告

第14回建築緑化講演会は大盛況を持って終了致しました。

参加頂いた皆様(約129名)有難うございました。

以下、簡単にご報告させていただきます。

■日時：2024年11月12日(火)

13:30～16:50

■開催方式：WEB講演会 (Zoomライブ配信)

■進行：

1. 基調講演 飯島 健太郎氏 (東京都市大学 環境学部長・教授、博士(農学))
講演タイトル「未来都市社会を支える自然資本とグリーンインフラ」

2. パネルディスカッション

コーディネーター 忽那 裕樹氏 (株式会社E-DESIGN 代表取締役)

パネリスト 根本 哲夫氏 (奈良女子大学 生活環境学部 教授、博士(学術))

岩田 友紀氏 (株式会社日建設計)

講演タイトル「愛着ある場所づくりを支えるランドスケープ・テクノロジー」

1) 緑が健全に生育していくための緑化技術

2) 人がかかわるプロセスプランニング

3) 会場質疑

司会進行:青山 恭久 運営委員長(建築緑化技術協会)

開会の挨拶:高橋 清人 会長(建築緑化技術協会)

共催しております各団体の紹介をさせていただく。一般社団法人である緑のまちづくり支援機構様は環境に優しく時代のニーズに対応した先進的且つ魅力的な街づくりを、緑化や設備関係の分野から異業種企業が集まり設立された一般社団法人。また、私共の任意団体である建築緑化技術協会は元々2004年に薄層屋上緑化システムを持つメーカー、施工会社が集まり薄層屋上緑化技術協会を設立後、近年において緑化のニーズも多様化し、設立20年の節目を迎えた今年の4月に建築緑化技術協会と団体名を改称した。緑のまちづくり支援機構様には2021年より定期的な合同会議を設けて大阪・関西万博での共創チャレンジの取り組みや技術開発、研究等を行い今回の講演会も共同で開催させて頂いている。

今回の講演は「水と緑と人と未来」をテーマにして、これからの皆様が活動する中で何かお役に立ち、更には業界の活性化に繋がればと思い、発信させていただく。



1. 基調講演

(1) 講師 飯島 健太郎 氏(東京都市大学 環境学部長・教授、博士(農学))

講演タイトル:「未来都市社会を支える自然資本とグリーンインフラ」



近年世界環境が変化する中、未来都市社会の安全性・健全性を担保するためにグリーンインフラ及び公衆衛生のアプローチから地域課題解決策を探る。今後も人類が生存できる環境を作るため、今こそ官民連携による広義のグリーンインフラの推進に取り組む時である。例えば都市施設の老朽化による将来の改修更新。効果的な土地の用途転換・複合機能化を図る事で自然が持つ多様な機能を活用し、都市環境改善や減災、経済振興、環境保全の融合、健康の為に緑地利用、暫定空地の緑地化を実現したい。これまでも環境改善施設である緑化空間が創出され、官民一体となって進める街づくりや暑熱環境緩和効果のある軌道緑化にも取り組んできたが、土壌汚染が問題となっている臨海部の都市開発等でもグリーンインフラの考え方が必要ではないかと提言する。海外の建築空間の先進的事例では、国や地域の目的・課題に応じて緑化技術に求められる機能の違いや、老朽施設の再生など各国の成功事例を紹介。公衆衛生と緑地の考え方について、予防医学においてはライフスタイルやコミュニティの

在り方が重要であり、人々を健康に導く様々な緑地利用が検証されている。官民一体となってこの緑地の介在可能性(緑の知覚・素材・空間の役割)について提案してほしい。栽培する事で心身の健康回復を図る「園芸療法」も注目を集めており、緑に触れる事で得られる心理的効果も脳科学的検証により立証されている。緑地の社会的便益を土地利用に活かしていき、健康的な未来環境やライフスタイルの事業化を実現したい。

2. パネルディスカッション

(2) コーディネーター 忽那 裕樹 氏 (株式会社E-DESIGN代表取締役)

パネリスト 根本 哲夫 氏 (奈良女子大学 生活環境学部 住環境学科 教授)

パネリスト 岩田 友紀 氏 (株式会社日建設計)

講演タイトル:「愛着ある場所づくりを支えるランドスケープ・テクノロジー」

1) 緑が健全に生育していくための緑化技術

今回の講演テーマ「水と緑と人と未来」に沿って、緑を健全に育成するための大事な緑化技術について2つの事例を通して紹介。

1つ目の事例は、JR熊本駅。「熊本の新名所となるランドスケープの創出」というビジョンの元、水と緑の立体庭園を室内緑化として実現。在来種の照度環境育成試験を行った上で樹種を決定し、AI技術を使ってエリア毎に植物の育成に有利な配置や最適な植付数をコンピュータシミュレーションにより導き出した。又身体感覚をベースにAI技術を活用した事で明るい場所に自然と自生する壁面緑化

や滝を表現する事ができ、その成功プロセスも紹介。2つ目の事例は、万博。会場の中心に位置する静けさの森は短期間で大規模な森の風景を形成するプロジェクト。万博公園にある移植樹木と新植樹木を組み合わせるために、適正な樹木の構成を検討した。高木の配置計画のシミュレーション、マッピングシステムの作成、高木のデータベース作りでデジタルデザインを活用し、その作業フローやルールの設定方法も紹介。この万博を通して緑化技術の進歩を表現しただけではなく、更なるAI技術の応用や実用性についても議論が及ぶ挑戦となった。この2つの事例から「持続可能な都市空間への新しいアプローチ=バックキャスト型思考」「AI時代のプロジェクトとの向き合い方」「プロセスプランニング」というキーワードを掲げ議論を深めた。



2) 人がかかわるプロセスプランニング

様々な人と関わりながらコンセプトを共有し役割を見出す事、ネットワークを築いていく事の大切さを2つの事例を通して紹介。

1つ目の事例は、平城宮跡歴史公園「おぎの美術館」。学生のアイデアから生まれたこのプロジェクトは3年前に始動し、展示方法を工夫する事で新たな風景の魅力を新たな媒体を通じて伝えていく取り組みである。1000年以上前からこの地に生息する植物のおぎの魅力をより多くの方に伝え、おぎの環境を守る為昨今の課題も知ってもらいたいと管理センター協力の元、毎年展示範囲を増やしながらか月半の会期で開催。更にスマートチャレンジとして新技術を用いた社会実験を実践し公園サービスとしての実用化も目指す。遠い未来のビジョンを描きながらそこへ繋いでいく為のAI技術の流用、バックキャスト型思考への転換が大事であると言及した。2つ目の事例は、「シーパスパーク」。訪れる人々と一緒に育んでいく公園。設計段階から市民活動団体と繋がり、実地体験を通して人々がやりたい事を先に決め、それを実現できる空間を建築の中にデザインする。順番を変えるだけでプロセスや支える環境デザインの形、緑化技術も更に開発されていくのではないかと提言。愛着ある場所作りについて、オープンスペースネットワークやまちごと万博にも話題が及び、次世代に繋げていく為のランドスケープの可能性について議論が弾んだ。

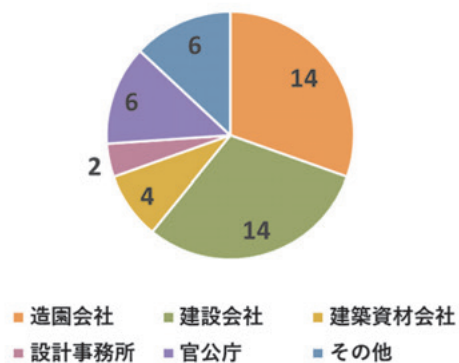
閉会の挨拶:小田辺 統一 運営委員長 (一般社団法人 緑のまちづくり支援機構)



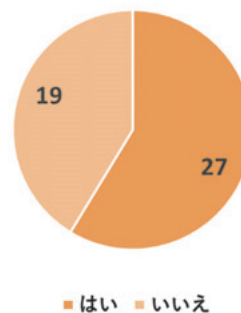
飯島先生ありがとうございました。我々が抱えている大きな課題を分かりやすくご提示いただき、解決策のヒントについて事例を用いながらご説明いただき、我々も今後何をしたいかといけないうのか少しヒントを貰えたものと考えています。忽那先生、根本先生、岩田先生、ありがとうございました。毎度のことながら楽しい時間を過ごす事が出来た。ダイナミックで素晴らしいデザインをしていく中では伝統的な緑化技術や、最先端のデジタル技術を融合していく、そしてさらにチャレンジして頂いている事に大変感動した。これが我々実務サイドに普及していくと良いなと思う。最後にAIや最新技術も大事だとは思いますが、結局は“想い”が非常に大事だと第二部を通して感じた。巻き込める人は全部巻き込んでやっていこうという試みに非常に感動した。来年以降も講演会を続けていきたいと思っているので楽しみにして頂けたらと思う。本日は長時間、ありがとうございました。

第14回 建築緑化WEB講演会 アンケート結果 46名回答/129名

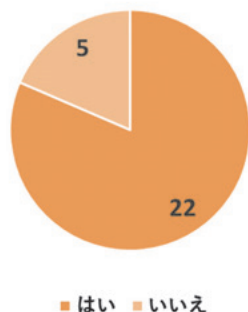
【問1】職業



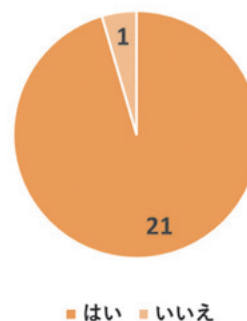
【問2】建築緑化技術協会を知っていましたか



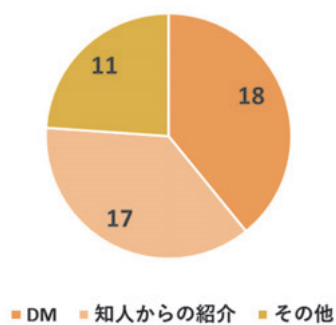
【問3】問2で「はい」と答えた方、建築緑化技術協会では、都市緑化に関連する講演会を過去に「13回」開催しましたが、知っていましたか



【問4】問3で「はい」と答えた方、過去の講演会に参加しましたか



【問5】今回の講演を何で知りましたか



【問6】今回の講演の感想

